

日本心理学会若手の会

JPA Early Career Psychologist Network



Vol.6 No.2 2021

**NEWS
LETTER** **CONTENTS**

- ・ 第6回異分野間協働懇話会のお知らせ
- ・ 日本心理学会第85回大会若手の会企画報告
- ・ 大会参加支援 受賞者の方々
- ・ 編集後記

第6回異分野間協働懇話会のお知らせ**<第6回異分野間協働懇話会のお知らせ>**

日時：2022年3月13日（日）13:00-18:00

開催形態：Gather を用いたオンライン開催（参加費無料）

参加・発表登録期間：2022年2月4日（金）～3月4日（金）

<https://sites.google.com/view/jpaecp-konwa2022/>

今年度も「異分野間協働懇話会」をオンラインで開催いたします。本懇話会は、分野や研究/実践の枠にとらわれず、様々な若手心理学者がアイデアや意見の交換を行うことで、新たな研究や実践のあり方について議論を深めることを目的としています。

プログラムとして、研究成果発表、実践活動報告、研究計画や構想などのポスター発表と、若手の会幹事によるざっくばらんなフリートークを計画しています。混迷を極める現代ではありますが、本懇話会が、若手・アーリーキャリア間の連携のきっかけとして、みなさまのキャリアパスに関す

る突破口を見つけるための一助となれば幸いです。

（上野将玄・讃井知・富田健太・前澤知輝）

日本心理学会第85回大会若手の会企画報告**<若手の会企画シンポジウム>**

文部科学省から若手研究者の研究力を強化するために、様々な新規支援策が講じられています。それに伴い、研究者たち自身の意見を集約して発信する必要があると考え、「日本心理学会若手の会企画シンポジウム：これからの若手研究者の諸問題と対処法の共有・展望」を開催しました。本シンポジウムでは、アンケートの結果を紹介し、「研究」「情報発信・ネットワーク形成」「キャリア」に関する困り事を共有しました。話題提供者として前田駿太さん（東北大学）、三浦佳代子さん（長崎純心大学）、中川裕美（東北福祉大学）、横光健吾（川崎医療福祉大学）の4名が各テーマを話しました。指定討論者の佐藤隆夫先生（人間環境大学）には、常任理事の立場からコメントを頂きました。特に、「キャリア」の話題の中で公募書類の統一化

と Web 応募の推進について、フロアの皆様と活発な議論が行われました。Web 開催 (Zoom) のおかげで約 100 名超の会員の方が参加され、若手研究者の声をより多くの方々に届けることができました。シンポジウムの盛況にご協力いただき、ありがとうございました。

(中川裕美・横光健吾)

<若手の会からの提言公開>

若手研究者へのアンケート結果及び日本心理学会第 85 回大会企画シンポジウムにおける議論を踏まえまして、若手の会からの 4 つの提言を作成し、この提言を「文部科学省 Air Bridge～研究現場を考える若手の会～」に提出しました。①非対面 (オンライン) で研究を実施するための金銭的支援、②分野を超えた研究者同士が交流できるプラットフォーム (アプリの開発など) の構築、③大学公募書類及び手続きの統一化、④公募手続きのオンライン化推進の 4 つを要望として挙げました。文科省の方からは、「現状、全てに有効な解を出すことは難しいが、問題意識として受け止める」旨のご回答いただきました。また、非対面での研究実施に関して、以下の有益な情報を頂きました。国立情報学研究所が昨年からの webex 上のシステムで最大 1000 名まで参加可能なオンライン会議のサービス (<https://www.nii.ac.jp/event/other/decs/ca.html>) を大学も対象に無料提供しているようです。若手研究者の困り事をすぐに解消することは困難ですが、意見を積極的に伝え、実現に向けて少しでも提言 (https://wakate.psych.or.jp/document/airbridge_teigen.pdf) が役立つことを期待します。多くの研究者の皆様と共有していただけると幸いです。

(中川裕美・横光健吾)

<進路相談会>

第 85 回大会でも恒例企画となっている「若手のための進路相談会」を開催しました。本相談会は

学会における企画ということで、若手研究者が研究を続けていく中で感じている不安や悩みを共有し、情報交換できる場を提供することが目的の一つです。そのため、相談役幹事は、大学院生・教員 (常勤/非常勤)・研究員など様々な立場の人で構成されています。また、今回はオブザーバーとして数名の先生が参加してくださいました。

本年度は相談内容をもとに 4~5 名のグループを設けて開始し、その後に更にグループを移動し様々な話ができるように実施しました。いずれのグループでも忌憚のない意見を言える雰囲気の中で建設的な話し合いが行われていたように感じました。

普段は所属や分野を超えて交流する機会は少ないと思われませんが、先輩たちが同じような悩みを持っていたことを知ったり、共通する悩みを抱える学生同士が情報交換できる機会となったようです。2022 年はまた新しい幹事を迎えることになり、次年度の相談会ではさらに良い形で発展していければと思っています。

(宮坂真紀子・佐藤徹男)

<学部生・高校生プレゼンバトル>

第 85 回大会でも学部生および高校生を対象としたプレゼンバトルを行いました。5 回目の開催となる今回のバトルは、コロナ禍の影響から録画動画を公開というイレギュラーな開催方法となりましたが、総勢 24 演題 (学部生 16 演題、高校生 8 演題) の発表が行われました。参加者たちは自分の研究成果や研究計画についてスライドを駆使しながら、4 分間でプレゼンしました。いずれも研究への情熱が感じられるすばらしいプレゼンテーションばかりであり、質の高さは担当者の予想以上でした。なお、幹事による選考の結果、3 名の方をベストプレゼンターとして選出させていただきました (若手の会 HP 活動記録参照)。また、今年度は高校生による発表件数の増加がみられました。学部生や高校生といった、より若い人々が参加で

きる企画は今後も継続していきます。

(上野将玄・瀧澤颯大・前澤知輝)

大会参加支援 受賞者の方々

筑波大学大学院 博士前期課程1年

鹿島 有歌里さん

日本心理学会第85回大会では参加費をご支援いただきありがとうございました。オンラインで普段とは違う雰囲気の学会であったかとは存じますが、初めてのポスター発表に対してコメントを頂いたり、多くの方のご発表やご講演を拝見したりし、1週間楽しんで参加することができました。

また若手の会の進路相談会では、自分の将来像について相談に乗っていただいたり、同様のキャリアを歩まれている方のお話を聞かせて頂いたりし、自分の将来についてより具体的に考えられるようになりました。この場をお借りして改めてお礼申し上げます。ありがとうございました。

私は現在反すうと気晴らしについて研究しています。不健康な反すうを減らすにはどうすればよいのだろうか？気晴らしはどうすれば効果的に利用できるのだろうか？といった疑問のもと、心理的に健康な生活を送るためのヒントになるような研究ができればなと考えております。まだまだ未熟者ではございますが、精進していく所存です。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

東京大学人文社会系研究科修士課程2年

清水 佑輔さん

この度は、日本心理学会第85回大会の参加費をご支援くださり感謝申し上げます。私は「高齢者は『高齢者』や『若者』をどう捉えているのか」という題目で発表させて頂きました。私がこれまで行ってきた研究では、高齢者ではない人々が高齢者をどう捉えているのかについて主に扱ってきました。一方、本研究では共同研究者の竹内

真純先生(神戸大学)、唐沢かおり先生(東京大学)のお力をお借りして高齢者を対象に調査を実施し、大変貴重な経験を積むことができたと感じています。

学会大会では、自らの専門である社会心理学以外の多様な心理学研究に触れることができました。高齢者偏見や世代間葛藤について十分に理解するには、社会心理学、老年心理学、臨床心理学などの幅広い知見を、量的研究、質的研究を問わず多面的に検討する必要があると考えております。日本心理学会の学会大会は、この目的を達成するのに最適な場であり、来年以降も積極的に参加・発表を重ねたいと思います。引き続き、多分野の先生方との交流を重ね、研鑽を積んで参ります。

北海道大学大学院修士課程1年

宮崎 聖人さん

この度は、大会参加費支援制度に採用していただき、誠にありがとうございます。

私は人の行動を数理的に予測・説明することに関心があります。具体的な研究内容としては、

(1) 知り合いとしか関わってこなかった人が見知らぬ人を信頼する条件のシミュレーションによる検討、(2) 二腕バンディット課題の実験データから人の学習や意思決定のメカニズムをうまく説明するモデルの探索などがあります。

今回の学会では、数理モデルを自動で探索するAIのプロトタイプを発表しました。皆さんは数理モデルを自分で構築した、あるいは構築しようとした経験があるでしょうか。もしそのような経験があれば、新しい数理モデルの構築が相当に難しいことを体感されたと思います。私が現在開発しているAIは数理モデルの構築を自動で行うため、完成すれば研究者が数学的スキルをほとんど必要とせずに数理モデル研究に取り組むことができます。

また、最近では海賊版サイトの功罪にも関心があり、電子コンテンツの新しい収益構造を考えることにも取り組んでいます。何か気になることがありましたら、ぜひお気軽にご連絡ください。

広島大学大学院 博士課程前期1年

西村 由貴子さん

この度は、第85回大会参加費支援制度に選出していただき、誠にありがとうございました。厚く御礼申し上げます。

私は、本大会で、「両親の自尊感情が子どもに与える影響 ―養育態度の媒介効果に着目して―」という題目で発表させていただきました。オンライン上での開催だったにもかかわらず、多角的な視点からのフィードバックをいただくことができ、自身の研究に対する新たな気づきが得られました。また、大会参加者の皆様の、技巧を凝らした発表資料はとて興味深く、自身の研究活動や心理臨床実践に対する関心がより一層高まっていくのを感じました。

今後も、家族研究領域や、ひいては臨床実践場面全体を支える知見を積み重ねていくために、日々の研究活動に尽力してまいりたいと思っています。貴重な経験を、本当にありがとうございました。

編集後記

今年度の学会はオンライン開催でしたが、そのような中で、若手の会の企画シンポジウム、進路相談会、学部・高校生プレゼンバトル、若手の会の懇親会は盛り上がりを見せ、ネットワークの構築もできていたように思います。また、若手の会企画シンポジウムに関連して、若手研究者の声をまとめ、提言書を作成できたことも非常に意義があるものだと思います。すでにいくつかの反響もありました。

年末の若手の会主催のオンライン懇親会におい

ても、熱量がある若手が多く集まってくれていました。火を絶やすことなく、これからも皆様と一緒に若手の会を盛り上げていければと思います。

次は、第6回異分野間協働懇話会にてお会いできればと思います。引き続き、どうぞよろしくお願いたします。

(井上和哉・佐藤徹男)

発行：若手の会幹事会

〒113-0033 東京都文京区本郷

5-23-13 田村ビル内

公益社団法人日本心理学会事務局

jps-ecp@psych.or.jp

2022年2月17日発行

編集：若手の会幹事会